

## 養護教諭が用いる心の健康に関する言葉のイメージ

田中 敏明<sup>\*1</sup>・本川 穂乃佳<sup>\*1</sup>・高木 富士男<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

<sup>\*2</sup>西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科

福岡市中央区福浜1-3-1 (〒810-0066)

(2018年10月29日受付 2018年12月3日受理)

### 要 旨

本研究は、養護教諭が職務上用いる言葉のうち、「健康」という基本的な用語のほかに、最近重視されている心の健康相談でよく用いられる「共感」「受容」「子どもと同じ目線」「子どもの立場」「サイン」「ニーズ」「居場所」「癒し」という言葉を取り上げ、養護教諭と養護教諭を目指す学生を対象に言葉の持つイメージを調査したものである。小学校に勤務する養護教諭49名と福岡県内のK短期大学保育及び養護教諭課程に所属する学生246名を対象に質問紙調査を実施した。回答を得たイメージをカテゴリー化したところ、9つの言葉全てが多様なイメージで捉えられており、単なる意味の違いだけでなく、「その言葉が意味するものを伝えたり表出する方法」、「その言葉が意味するものの具体的内容」、「その言葉が意味するものを実現する方法」など様々な異なるカテゴリーに分類できるイメージが回答された。養護教諭の回答は、学生と比べると、職務経験を反映するものが多く見られた。この結果から、養護教諭や学生同士の会話でも、同じ言葉を異なる意味やイメージで用いている可能性が高いことが示唆された。

### 1. 研究の背景と目的

同じ言葉が時代や地域、世代によって異なる意味で用いられることは少なくない。その場合には、相互間の意思の疎通や共通理解に支障をきたすことになる。現在、学校現場では、チーム学校<sup>1)</sup>、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校のスムーズな接続、社会に開かれた学校<sup>2)</sup>など、教育効果を上げるための様々な施策が求められている。これらの施策を実現するためには、校内の多職種間連携をはじめとして、異なる校種間、保護者、地域住民、専門機関との連携が不可欠である。連携を目指した交流の中で対話が行われる場合、各々の関係者が属する文化の違いにより、相互理解や対話に困難が生じることが報告されている<sup>3)</sup><sup>4)</sup><sup>5)</sup>。困難が生じる理由として、たとえば幼稚園教諭と小学校教諭の対話においては、幼小の教師が同じ言葉を使っても実態として指し示すものは大きく異なる可能性があり、幼稚園と小学校では目的、内容、教育観、子ども観、教師の属する職場文化は異なっているため、教師が教育の場で用いる語の意味には相違があることが予想されるという。野口ら<sup>6)</sup>(2005)、

野口ら<sup>7)</sup>(2007)は、幼稚園教諭と小学校教諭を対象に「子ども中心」、「教師中心」、「長い目で見る」、「子ども理解」、「仲間づくり」など8語のイメージを調査し、両者を比較したところ、全ての語において言葉の受け止め方や理解に違いが見られたという。このような違いは職種だけでなく、同一職種の個人間でも生じることが予想される。

学校現場で児童生徒の健康管理や健康増進を担う養護教諭は、学校で、①学校保健情報の把握に関すること②保健指導・保健学習に関すること③救急処置及び救急体制に関すること④健康相談活動に関すること⑤健康診断・健康相談に関すること⑥学校環境衛生に関すること⑦学校保健に関する各種計画・活動及びそれらの運営への参画に関すること⑧伝染病の予防に関すること⑨保健室の運営に関すること⑩その他という10項目の職務を遂行することが求められる(文部科学省・ホームページ<sup>8)</sup>)。すべての職務で担任や管理職、スクールカウンセラー、栄養教諭、保護者、専門機関の職員等との連携が求められるが、最近では不登校児童生徒、いじめ、貧困家庭などの増加に伴い、心の健康管理や健康相談活動に関わる職務の遂行が重要視されている。これらの職務を遂行するにあたっては、校内の教職員をはじめ保護者や関係機関の職員との連携が不可欠である。効果的な連携が推進されるためには、相互間の共通理解が不可欠であり、両者の言葉の受け止め方や理解に食い違いがないことは共通理解に基づいた連携を可能にする重要条件の一つである。

そのためには、多職種の関係者との間の言葉の共通性を問う前に養護教諭間の共通性が問われることになる。山田ら(2014)<sup>9)</sup>は、養護教諭の行う連携に関する研究の中で、養護教諭は「連携」「協働」「コーディネート」等の用語を明確な区別なく使用していたり、これらが混在して用いられたりしていることを指摘している。

本研究は、養護教諭が職務上用いる言葉のうち、「健康」という基本的な用語のほかに、最近重視されている健康相談でよく用いられる「共感」「受容」「子どもと同じ目線」「子どもの立場」「サイン」「ニーズ」「居場所」「癒し」という言葉を取り上げ、養護教諭と養護教諭を目指す学生を対象に言葉の持つイメージを調査する。回答を得たイメージをカテゴリー化することによって、言葉の意味の食い違いや養護教諭と学生との違いについて明らかにすることを目的としている。

## II. 方法

1. 調査対象者：福岡県内の公立小学校の養護教諭180人および、福岡県内のK短期大学に所属する保育及び養護教諭課程に所属する1、2年生、養護教諭課程専攻科1、2年生計246名。対象は全員女性である。

### 2. 調査の内容

健康相談や保健指導、教師間でよく用いられる言葉として「共感」「受容」「子どもと同じ目線」「健康」「子どもの立場」「サイン」「ニーズ」「居場所」「癒し」という9の言葉を選択

した。言葉それぞれを文章化し、言葉から連想される単語を言い換えるとどのような言葉になるかについて3個以上6個以内での自由記述を求めた。

①子どもの気持ちに「共感」する。②子どもの行動や思い、気持ちを「受容」する。③「子どもと同じ目線」で考える。④子どもの「健康」を守る。⑤「子どもの立場」になって考える。⑥子どもの出す「サイン」に気づく。⑦子どもの「ニーズ」を把握する。⑧子どもの「居場所」をつくる。⑨子どもが「癒し」を感じる。

### 3. 分析の方法

回答を得た語のカテゴリ分類を行った。複数のカテゴリにまたがる内容がみられた場合、主となる意味内容にあてはまるカテゴリ1つのみに分類した。また、理解し難い回答や、対象の語とあまりにもかけ離れている回答に関してはその他に分類した。

### 4. 調査の方法

養護教諭については、調査用紙を各学校に郵送し、記入後返送してもらった。学生については、授業時間中に担当教員の下承を得て調査用紙を配布、回収した。

### 5. 倫理的配慮

調査対象者に調査の目的や方法、調査の過程で対象者に不当な障害をもたらさないこと、調査に協力するか否かは、対象者の自由な意思によって決定されること、個人名は公表せず個人情報の保護やプライバシーの保護に十分配慮を行うこと、得られた情報を調査以外の目的に使用しないこと、答えたくない質問には答えなくてよいことを書面上で説明した。回収した調査用紙は10年間厳重に保管し、その後速やかに破棄する。

## III. 結果

養護教諭の回収率は27.2% (180人中49人)、学生の回収率は100% (146人中146人)であった。回答した養護教諭の平均経験年数は18.5年である。

### 1. 回答数

養護教諭と学生を比べると、全体平均では養護教諭が1語あたり3.0個、学生は2.1個で養護教諭の方が多く答えている。

### 2. それぞれの言葉に対する回答内容

それぞれの言葉ごとに回答された言葉を示す。最初に示す文章は、広辞苑による言葉の定義である。

①共感：他人の体験する感情や心的状態、あるいは人の主張などを、自分も全く同じように感じたり理解したりすること。

表1からわかるように、養護教諭、学生共に、「うなづく」、「相槌をうつ」、「肯定する」など共感した時の行動カテゴリが多く、意味カテゴリに分類される回答数を上回っている。意味カテゴリでは、「同じ気持ち」、「一緒のを感じる」、「同感」などの回答が多

い。その他には、「傾聴」や「一緒に考える」などの共感するための手段・方法カテゴリーや、学生だけに見られた「安心」、「がんばる」、「きつい」などの共感する内容や共感を得たときの子どもの気持ちカテゴリー、「納得」という共感する側の気持ちカテゴリーに分類される回答が挙げられた。

表1. 「共感」の回答内容とカテゴリー

(学生)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
意味	同じ気持ち/一緒に感じる/同感/I think so/分かち合う/私もそう思う/分かる/共に感じる/共有する/共に考える/同じ立場になる/同調/分かちあう/同意	115
共感した時の行動 (共感する側)	うなづく/相槌をうつ/肯定する/褒める/寄り添う/受け入れる/感じる/理解する/認める/賛成/受けとめる/受容/思いやる/子ども自身を想う/一人じゃないと感じさせる	158
共感するための手段・方法	知る/カウンセリング/話を聞く/一緒に考える/向き合う/傾聴/相談にのる/相手の感情を引き出す/尊重/傾聴する	23
共感した時の気持ち	納得する	5
共感してもらった 子どもの気持ち	安心	4
共感する人	養護教諭/保育士/友達	3
その他	合わせる/共鳴/立場/調和/優しさ/共通/共同/とけこむ/統一/感心/意見/苦痛/友情/感受性/協力/繋がる/気持ち/心/分け合う/信頼/協力/大切/支え/平等/守る/目線/さらす/話合う	32
(養護教諭)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
意味	同じ気持ち/同調する/受けとめる/同じ立場になる/共有/同感/一緒に共鳴/同情/共に考える/同意/分かち合う/分かる/感じる/分かちあうと思う/心の声/心が通じ合う	36
共感した時の行動 (共感する側)	寄り添う/うなづく/理解/受容/受け入れる/相槌/認める/行動/ほえむ/感情を言葉で表す/味方になる/否定しない	74
共感するための手段・方法	傾聴/一緒に考える/話を聞く/向き合う/効果的な沈黙/心をあわせる/会話	23
共感してもら合う前や後の 子どもの気持ち	行きたくない/がんばる/きつい/痛い/喜び/悲しい/本人の不安	8
その他	感じ入る/目と目が合う/安定/思いやり/反省/同志/新鮮/つながる/心が動く/真心/確認/興味関心/共通/心が通じ合う/愛/想像/ダメなことは伝える	17

## ②受容：受け入れて取りこむこと。

表2からわかるように、学生、養護教諭ともに意味カテゴリーに分類される語の発生頻度が最も多かった。また、意味カテゴリーは「受けとめる」や「分かる」などのような、気持ちを知る・理解するサブカテゴリーと、「受け入れる」や「共感」、「肯定」などの気持ちを知ったうえで認めるサブカテゴリーに分けることができる。両者を比較したところ、学生と

養護教諭の捉え方に差が見られた。学生では、気持ちを知らず・理解するサブカテゴリーに分類される語が気持ちを知ったうえで認めるサブカテゴリーの倍近いのに対して、養護教諭はそれぞれに分類される語がほぼ同数である。また、学生のみのカテゴリーとしては、「相談する」という受容してもらうための手段カテゴリーが、養護教諭のみに見られたカテゴリーとしては「痛いね」、「悲しかったね」などの具体的な声掛けカテゴリーがある。その他のカテゴリーとしては、「包み込む」、「認める」などの受容した時の行動カテゴリー、「考える」、「寄り添う」などの受容するために必要なことカテゴリー、「傾聴する」、「要約する」などの受容するための手段・方法カテゴリーがみられた。

表2. 「受容」の回答内容とカテゴリー

(学生)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
意味		195
→気持ちを知らず・理解する	受けとめる/理解する/ありのままを受け止める/分かる/納得する/受けとる/分かってあげる/把握する/くみとる/認識/同意/知る	128
→気持ちを知ったうえで認める	受け入れる/分かち合う/聞き入れる/感じる/のみこむ/感知/同じ気持ち/同じ考え/許容/保護/分かりあえる	67
受容した時の行動	包み込む/尊重する/大切に/大事にする/言葉のくりかえし/なだめる/共感する/肯定する/うなずく/抱きしめる/握手	49
「受容」	受容するために必要なこと	27
	考える/寛大さ/思いやり/信用すること/否定しない/感じる/カウンセリング技法/支える/寄り添う/同じ目線に立つ/温かさ	
	受容するための手段・方法	18
	傾聴する/話を聞く	
	受容してもらった側の気持ち	2
	安心感	
	受容する人	2
	養護教諭/保育士	
	受容してもらうための手段	2
	相談する	
	その他	8
	再確認/思うこと/受け身/共通/心/深く/指示する/媒体	
(養護教諭)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
意味		71
→気持ちを知らず・理解する	受けとめる/理解/受けとる/知る/納得/共有	39
→気持ちを知ったうえで認める	受け入れる/共感/肯定/分かりあう/承認/聞き入れる/感受する	32
受容するために必要なこと	寄り添う/否定しない/優しさ/信頼/寛容/支持/笑顔/一緒にいる/確認する/ぬくもり/温かさ/リラックス/くつろぎ/感情を出させる/心を開く/分かるとうとする/推理/想像/寛大/助ける/客観視	35
「受容」	受容するための手段・方法	13
	傾聴/よく聞く/くりかえす/触れる/最後まで聞く/要約する/明確化/語り合う	
	受容するための行動	12
	認める/包容/守る	
	具体的な声掛け	5
	痛いね/悲しかったね/きつかったね/がんばったね/良かったね	
	受容してもらった側の気持ち	1
	安心	
	受容する人	1
	母親	
	その他	15
	心/わがままではない/気持ちを整理する/溶け込む/大事にする/甘える/キャッチ/有様/気持ち/無条件/実感/受け身/透視	

③同じ目線：物事を見る方向や位置が同じであること。

表3からわかるように、学生・養護教諭ともに「寄り添う」、「共感」など同じ目線に立つために必要なこと（条件）カテゴリーに分類されるイメージが最も多く見られた。意味カテゴリーに分類されるイメージでは、学生、養護教諭ともに「同じ立場」、「同じ気持ち」という回答が多い。これ以外にも、養護教諭のイメージの中に、「理解」や「状況把握」など、同じ視点に立った結果もたらされるものカテゴリーに分類されるイメージがある。このカテゴリーに関しても学生、養護教諭ともに「理解」という回答の発生頻度が高い。

表3. 「子どもと同じ目線」の回答内容とカテゴリー

(学生)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
意味	同じ立場/同じ視点/立場/観点/同じ気持ち/子どもの気持ちになる/一緒に考える/共感的理解	92
「子どもと同じ目線」 同じ目線に立つために必要なこと（条件）	寄り添う/目線を合わせる/なりきる/考える/感じる/同等/共感/平等/子どもの頃の気持ちを思い出す/柔軟な考え/広い視野/客観的/対等/一緒に/低姿勢/立つ/上から言わない/目線を下げる/アイコンタクト/褒める/広い視野/対等/柔軟な考え方/信頼関係を構築する/豊かな考え/同位/真剣/力になる/傾聴/先入観を捨てる/代弁する	120
同じ目線に立った結果もたらされるもの（結果）	気づき/知る/理解する/思いやる	8
(養護教諭)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
意味	同じ立場/同じ気持ち/価値観を押し付けない/見方・考え方/同一視/共に考える	46
「子どもと同じ目線」 同じ目線に立つために必要なこと（条件）	寄り添う/共感/姿勢/想い/ほほえむ/しゃがむ/楽しむ/目を合わせる/発達段階でみる/対等/一緒に/想像/信頼/同等/平等/共同作業/触れる/輪に入る/交わる/座る/まゆげをゆるめる/呼吸をゆっくりにする/傾聴/うなずく/視線/見守る/信用/素直になる/推理/価値観/視野/くみとる/分かろうとする	54
同じ目線に立った結果もたらされるもの（結果）	理解/状況把握/背景/家族関係/友人関係/環境/生活/学級/安心/共有/通じあう	21
その他	人権/心/下げる/土台/余裕/好き/同化/本音で/確認/考慮/関係/関わる/ストレート/総合的/相手意識/笑顔	17

④健康：身体に悪いところがなく心身の健やかなこと。

表4からわかるように、学生の回答では、「運動」、「睡眠」などの健康な体づくりの方法カテゴリーに分類されるイメージが最も多い。一方で、養護教諭では、「体と心が健やか」など、意味カテゴリーに分類されるイメージが多い。それ以外にも、学生、養護教諭ともに、運動、睡眠などの健康な体づくりの方法カテゴリー、「元気」や「笑顔」など健康な時の様子カテゴリー、「命」、「生命」などの命そのものカテゴリー、「けが」や「病気」などの不健康な状態カテゴリーに分類されるイメージがみられた。学生のみのカテゴリーとしては、「安

全」、「平和」などの環境要因カテゴリー、「養護教諭」、「WHO」などの健康を守る人・機関カテゴリーがある。

表4. 「健康」の回答内容とカテゴリー

(学生)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
意味	体調良好/体力がある/健やかな身体/体が丈夫/身体 の健康/体/身体に異常がない/体の元気/体の良 好な状態/病気がない/心が元気/ストレスがない/ 心が病んでない/精神/心/心理的/心の安定/心身 ともに元気/心と体の健康/心身の状態	83	
健康な体づくりの方法	運動/睡眠/規則正しい生活/疾病の予防/食生活/ 生活/生活習慣/早寝早起き/食育/健康相談/健康 診断/排泄/指導/声掛け/注意/自ら守る/対策/日 常生活/体調管理/生活/休養/健康観察/応急処置	101	
健康な時の様子	元気/明るい/健やかな成長/笑顔/毎日楽しく過ご せる/活発/丈夫/強い/五体満足/たくましい/生き る力/幸せ/いきいき/安心	77	
「健康」 環境要因	安全/平和/身の回りの安全/安全管理/環境/家庭 環境/人間関係/自己肯定感/環境	27	
不健康な状態	風邪/インフルエンザ/けが/病気/むし歯	13	
命そのもの	命/生命/寿命	13	
健康を守る人・機関	養護教諭/保育士/WHO	3	
その他	スポーツマン/子どもそのもの/環境/保持増進す る/大切/様子/保持/大事/推測/視力/保健/管理/ 日常/考え/遺伝/長生きの秘訣/体型/問題/学校生 活/臨機応変/人生/把握/安心/発達/未来/BMI18.5 ~25/姿勢/努力/身体/メンタル/心身	53	
(養護教諭)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
意味	体/具合/心/ストレスがない/精神が穏やか/病ん でない/心身/体と心が健やか/体と心の安定/体と 心が良い状態/強い心と体/柔軟な心と体/病気で ない	49	
健康な時の様子	元気/活発/笑顔/ハツラツ/もりもり/のびやかさ/ 子どもらしさ/やる気/発育/発達/成長/健やか/生 きる力/笑顔/安定/安心	44	
「健康」 健康な体づくりの方法	食/観察/食育/保健委員による呼びかけ/体育/共 通理解/生活習慣/病気やけがの予防/コミュニ ケーションづくり/前向きな気持ち/医療を受けら れる/見守る/実態把握	22	
命そのもの	命/生命/生きる	12	
不健康な状態	けが	1	
その他	体調を整える力/大切/安全/将来/未来/夢/生涯/ 毎日/権利/人それぞれ/ひとつ/自己表現/基盤/存 在/人権/環境/尊厳/自立/考えさせる/興味を引く /長期戦/先を見据える/宝物/幼少期/発達段階社 会/自己表現/ノーマライゼーション/ADLの向上/ 願い/幸福/子どもらしさ/発育・発達	48	

⑤子どもと同じ立場：その人が置かれている地位や状況が同じであること。見地。観点が同じであること。

表5からわかるように、学生、養護教諭ともに、「同じ考え」、「同じ気持ち」、「子どもの視点」、「こどもと同じ目線」などのイメージが意味カテゴリーに分類された。なかでも「子どもと同じ目線」という回答が多く見られた。それ以外にも、学生、養護教諭ともに「味方になる」、「思いやり」などの子どもの立場に立つために必要なこと（条件）カテゴリー、「目線を合わせる」、

「距離を縮める」などの手段・方法カテゴリーがある。「理解」、「訴え」などの子どもと同じ立場に立った結果得られるものカテゴリーに分類されるイメージは養護教諭だけに見られた。

表5. 「子どもと同じ立場」の回答内容とカテゴリー

(学生)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
意味	子どもの目線/同じ考え/子どもの視点/同感/同じ目線/子どもになりきる/子どもの気持ちを考える/子どもの考え/視点に立つ/同じ立場/共感する/違う角度/同等/平等/対等/位置/子どもがおかれた状況を理解する/気持ちをくみとる/思いを受け止める/同情する	126	
「子どもと同じ立場」	子どもの立場に立つために必要なこと(条件)	柔軟な考え方/子どもの味方/親身になる/気持ちをj知る/客観的にみる/クラスでの立場/思いやり/見守る	16
手段・方法	目線を合わせる/話を聞く/客観的にみる/子どもの頃を振り返って/自分の過去を振り返って/子どもの頃を思い出す/共有/経験から/置き換える/低姿勢/距離を縮める/観察	14	
その他	子ども自身/人間関係/される側/気づき/発覚/子どもの/生徒の/学生の/家庭内/学校/地域/状況/実情/想像/見解/思う/責任/自己中心性/感情/表情/友人/担任/家族/両親/習い事/環境/代弁する/同士	31	
(養護教諭)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
意味	子どもと同じ気持ち/子どもと同じ目線/置かれている環境から物事をみる/子どもの考え/子ども側/対等/子どもと同じ/気持ちを分かち合う/共感/大人としての考えを入れずに/決めつけずに/子ども心	40	
「子どもと同じ立場」	子どもの立場に立つために必要なこと(条件)	味方になる/寄り添う/子どもの生育歴を考える/利害関係なく/子どもの発達段階/クラスでの状況/子どもの性格や特性/子どもの得意・不得意/先入観を捨てる/背景/素直に/経験/教員の立場をこえて/一人の人間として/純粋/思いやり	25
手段・方法	自分に置き換える/子どもの見方でみる/子どもに戻る/子どもの頃を思い出す/受容/目線を合わせる/傾聴/一緒に考える/直観で/子どもの受け入れ方/考える/発言/子どものことを知る/把握する	16	
子どもの立場に立った結果得られるもの	理解/思い/訴え/困っていること/悩み	9	
その他	相手/そのまま/子ども心/状況/保護者/生育歴/自身/行動/人/人間/思い通り/楽しく/ゆとり/幸せ/体力・思考力/弱い立場/子どもの立場/戦う/様子/支援/いじめ/協働/連携する	25	

#### ⑥サイン：合図、記号、信号。

表6からわかるように学生、養護教諭ともに、意味カテゴリーは比較的少なく、学生は「変化」、「SOS」などのサインが伝えるものカテゴリーと「表情」、「行動」などのサインを伝える手段カテゴリーが多く、養護教諭はサインを伝える手段カテゴリーが多い。また、「意味」カテゴリーとしては、学生、養護教諭ともに「合図」や「しるし」などがある。これ以外に

も、「気づき」や「観察」などのサインへの対応カテゴリーに分類されるイメージがみられた。

表6. 「サイン」の回答内容とカテゴリー

(学生)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
意味	合図/求め/シグナル/目印/信号/様子/徴候/印	43	
サインが伝えるもの	SOS/困っていること/心の訴え/心の健康問題/訴え/必要とすること/助け/信号/アピール/変化/危険/小さな変化/違和感/異変/警告/気持ち/感情/心にひめられていること/悩み/叫び/痛み/印	118	
「サイン」	サインを伝える手段	表情/行動/態度/異変/視線/しぐさ/様子/徴候/保健室来室頻度の増加/身体的不調/身体症状/言葉/泣き声/気持ち	117
	サインへの対応	触れる/観察/考える/救助要請/解決/気づき/健康相談/健康診断	9
	その他	思い/手助け/手を差し伸べる/心の健康問題/感情/気持ち/気づき/注意/ヒント/チャンス/示す/泣き声/痛み/必死/記録/保健室/身体面/心身/心/原因/主観視/背景/めやす	32
(養護教諭)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
意味	徴候/合図/シグナル/要求/要望/信号/発信/しるし/表出	18	
「サイン」	サインを伝える手段	表情/言葉/行動/体調/声色/態度/変化/違い/視線/目線/服装/身なり/遊び方や遊び相手/人間関係/体調/行き渋り/不登校/不定愁訴/身振り/しぐさ/生活態度/出席態度/出席状況/会話/様子/言動/相談/顔色/食欲/身体症状/忘れ物/つぶやき/訴え/アピール/ボディールランゲージ	91
	サインが伝えるもの	SOS/思い/ストレス/心の涙/心の声/不安/警告/メッセージ/苦しみや怒り/意志/悩み/喜び/病気	25
	サインへの対応	助け/気づき	5
	その他	必要/響き/感性/表示/感受性/鋭い/反応/気配/心/音/大切/見る/大人/家での様子	14

⑦ニーズ：必要、要求。

表7からわかるように、回答されたイメージの大部分は学生、養護教諭ともに「求め」、「要求」など意味カテゴリーである。それ以外には「SOS」や「気持ち」などのニーズの内容カテゴリー、「支援」、「理解」などニーズへの対応カテゴリーもみられる。「必要」などの回答の発生頻度が多かった。ニーズへの対応カテゴリーでは、学生のイメージとしては「受容」や「受け入れる」、「話を聞く」などの漠然とした回答が多いのに対し、養護教諭は「家庭訪問」や「ケース会議」、「合理的配慮」などの比較的具体的な内容のイメージが多く見られた。

表7. 「ニーズ」の回答内容とカテゴリー

(学生)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
「ニーズ」	意味	必要性/必要としていること/必要なもの/求めていること/求める/求めているもの/求め/欲しいもの/欲求/願望/需要/容量/問題/主張/助けてほしいこと/足りないもの/子どもにとって良いこと/子どもが喜ぶこと/子どもにとって学びとなること/願ひ/欲/実態/現状	130
	ニーズの内容	SOS/気持ち/考え/子どもに合う/おもちゃ/遊具/健康	8
	ニーズへの対応	対応/受容/見立て/話を聞く/受容/供給/一人ひとりにあった指導/合わせる/受け入れる	12
	その他	気持ち	4
(養護教諭)			
カテゴリー名	回答例	発生頻度	
「ニーズ」	意味	必要/要求/欲求/したいこと/訴え/希望/求められているもの/してほしいこと/言いたいこと/分かっていること/望んでいること/受容/課題/渴き/有用感/あっていること/欠乏感/困り感/助けてほしいこと/困っていること/考え/願ひ/思い	87
	ニーズの内容	SOS/気持ち/居場所	5
	ニーズへの対応	支援/理解/協力/合理的配慮/家庭訪問/ケース会議	7
	ニーズに対応した結果分かること	実態/状況	2
その他	思い/特性/教育/行動/観察/理想/健康/生活/交流/こころ/話/背景/家族構成/学力/関係機関/個性/発達段階/長所・短所/環境/大切なもの/社会的ニーズ/家族のニーズ/本人のニーズ/担任のニーズ/自己選択/自己決定/潜在/改善に向けているもの	33	

#### ⑧居場所：いるところ、いどころ。

表8からわかるように、学生、養護教諭ともに、「安心できる」や「心地よい場所」など居場所とはどのようなところかを説明するイメージが最も多く、それに続いて「保健室」や「空間」などの具体的な居場所・名称に関するイメージも多い。また、養護教諭だけに見られたイメージとして、「信頼」や「笑顔」などの居場所にいるときの子どもの様子カテゴリーがある。

表8. 「居場所」の回答内容とカテゴリー

(学生)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
説明	安心できる場所/ほっとする場所/心が安らぐ/落ち着く/心地よい/笑顔でいられる/好きなどころ/心が休まるどころ/穏やかに過ごせる/ずっといられる/自己肯定感が持てる/活躍の場/受け入れてくれる/存在感を感じる/自分がいてもいいと思えるところ/笑うことができる/ありのままでいられる/自己存在感を得られるところ/逃げ場/気軽に立ち寄れる/休める/楽しい/心のよりどころ/頼れる/安全/自分でいられるところ/帰る場所/ぬくもり/過ごしやすい/無理がない/憩の場/癒し/なにも考えなくてよい/嫌なことを忘れられる/素でいられる/通いやすい/心の支え/:助けを求められる	135
「居場所」	保健室/家庭/家/学校/養護教諭/友人/部屋/場所/環境/空間/休憩所/教室/トイレ/相談室/リビング/保育所/良い学習環境/良い生活環境/地元/恋人/人/先生/砂場/住み家	72
その他	雰囲気/住み家/心/安定/優しい/必要/味方/唯一/支え/愛情/範囲	11
(養護教諭)		
カテゴリー名	回答例	発生頻度
説明	安心できる/一息つける/落ち着く/安らぎ/心地良い役割がある/必要とされる/承認される/自信を持てる/安全/自分らしくいれる/人と関わるところ/違和感がない/いてもいいと思える/ありのまま/用事がなくても来れる/心を許せる/存在感/自己存在感を感じられる/戻ってこれる/愛情を感じられる/甘えられる/熱中できる/話せる/リラックスできる/くつろぐ/大切にされる/守られている/いて当たり前/ドキドキしない/温かい/寄り添う場/厳しく向き合う場/笑顔でいられる/心の支え	85
「居場所」	保健室/基地/教室/家族/家庭/空間/オアシス/教室とは違う空間/ホーム/囲い/止まり木/シェルター	26
居場所にいるときの子ども様子	信頼/笑顔/爆発/不安/悩み/様子/ゆとり	7
その他	受容/肯定感./発達/アンガーマネジメント/有感情/褒めること/家庭での協力/人/心の安定/ルール/心/気持ち/パワースポット/素直な心	11

⑨癒し：心を和ませるような雰囲気や効果を持つ一連のもの。

表9からわかるように、学生、養護教諭ともに「安心」や「心地よさ」などの意味カテゴリーに分類されるイメージが最も多く、次いで「休む」、「音楽」などの癒しの方法・手段カテゴリーが多い。少数ではあるが、「保健室」、「温泉」など癒される場所のイメージもみられた。

表9. 「癒し」の回答内容とカテゴリ

(学生)		
カテゴリ名	回答例	発生頻度
意味	安心/落ち着き/心地よい/安定/和む/ほっとできる/温かい/解放/幸せ/喜び/安らぐ/笑える/疲れがとれる/快適/信頼/リラックス/心が穏やか/嫌な気持ちにならない/笑顔/和み/心の安寧	175
「癒し」 癒しの方法・手段	休む/音楽/愛情/養護教諭/好きなこと/寝る/嫌なことを忘れられる/面白いこと/安らげる/緊張しない/優しさ/趣味/動物/よりどころ/話し相手/ほめる/親/兄弟/友人/包容/小さい子/無理がない/赤ちゃん/優しい声掛け/話を聞く/休息/身体接触/安心できる人/側にいてあげる/マッサージ/オルゴール/アロマ/ぬいぐるみ/植物/海/森/自己肯定感	58
癒しの場所	保健室/憩の場/温泉/居場所/自然	11
その他	心の支え/信頼/楽しみ/頼る/求める/嬉しい/好き/喜ぶ/安全/純粋/気分転換/冷静さ/素直/優しい/愛情/ストレス解消/恵み	23
(養護教諭)		
カテゴリ名	回答例	発生頻度
意味	安心/ほっとできる/安らぎ/落ち着く/心地よさ/温かい/おっとり/快適/幸福感/喜び/居心地/気持ちよく/気持ちがほぐれる/眠くなる/生き生き/ほかほか/すっきりする/ほっこり/ゆとり	76
「癒し」 癒しの方法・手段	音楽/休息/優しさ/眼差し/愛されている/言葉/休養/静か/大切にされている/ケア/なぐさめられる/早寝/お風呂/食事/外出/絵本/おえかき/折り紙/笑顔/笑い/自然体	31
癒しの場所	保健室/ベッド	3
その他	ゆとり/認める/元気/甘える/安全/ゆっくり/母性を考える/児童理解/もとの姿に近づくこと	11

## V. 考 察

今回調査の対象とした言葉によって、イメージする内容にかなりの違いが認められる。

『共感』は、学生、養護教諭ともに、共感そのものの意味よりも「うなずく」、「寄りそう」など共感した時の行動カテゴリーに分類されるイメージが最も多く「話を聞く」、「一緒に考える」など共感するための手段・方法に分類されるイメージ、共感を得る前後の気持ちに分類されるイメージなどが見られる。「共感」本来の意味は「他人の体験する感情や心的状態、あるいは人の主張などを、自分も全く同じように感じたり理解すること」である。意味カテゴリーに分類されたイメージの中身を見ると、同じ気持ち、一緒にのことを考えるなど意味の正しいものが多いが、共有、同情、同意、心の声、心が通じ合うなど誤った捉え方も少なくない。誤った捉え方は学生より養護教諭に多く見られる。共感した時の行動カテゴリーに分類されるイメージが最も多い理由として、健康相談活動などで共感是需要や肯定とともに重要な技法の一つであり、共感したことを児童生徒にどう伝えるかに重きが置かれているからではないだろうか。

次に『受容』については、両者とも意味カテゴリーのイメージが最も多い結果となった。

また、結果でも述べているように『受容』の意味をさらに2つのサブカテゴリーに分けて比較したところ、学生は気持ちを知る・理解するサブカテゴリーのイメージが多かったのに対し、養護教諭は気持ちを知ったうえで認めるサブカテゴリーのイメージもほぼ同じ発生頻度で見られた。このことから、養護教諭は普段の職務の中で相手の「気持ちを知る・理解する」だけにとどまらず、相手の「気持ちを知ったうえで認める」ことも重視していると推測される。さらに、養護教諭のみにみられたカテゴリーとして「痛いね」や「悲しかったね」などの具体的な声掛けカテゴリーがある。この背景としては、普段の職務の中で声掛けをすることによって『受容』していることを相手に伝え、安心感を与えようとしているのではないかと思われる。

『同じ目線』について、意味カテゴリーに着目すると両者ともに最も発生頻度の多いイメージは「同じ立場」であり、イメージにそれほど違いはみられない。同じ目線に立つために必要なこと(条件)カテゴリーの中で「目線をあわせる」や「ほほえむ」などの具体的な行動に当たる回答が養護教諭に多くみられた。具体的な行動で表すことで子どもに、より安心感を持ってもらうようにしたいという養護教諭の考えが表れているのではないだろうか。同じ目線に立った結果もたらされるもの(結果)カテゴリーに着目すると、学生の回答としては「理解」、「知る」などといった漠然としたものが多くみられたが、養護教諭の回答としては「家族関係」、「友人関係」など、子どもを取り巻く環境にかなり入り組んだ回答が多くみられた。

『健康』について、学生の意味カテゴリーの中で多く見られたイメージは「体が丈夫」などの体の面に関する回答であったが、養護教諭では、体の面だけでなく心の面に関するイメージも多い。このことから、学生は心の健康問題が深刻化しているという背景にあまり理解がなく、『健康』といえば「体の元気」が一番だというイメージで考えている学生が多いことが読み取れる。一方で養護教諭は、普段の職務の中で体の健康問題だけでなく心の健康問題に対応する機会が多いため、このような結果になったのではないかと考えられる。

『子どもと同じ立場』について、本来はその人がおかれている地位や状況、観点が同じであることと定義されている。意味カテゴリーに着目すると、学生、養護教諭ともに「子どもと同じ目線」が最も多くなっており、両者のイメージはほぼ同じである。一方で、「同感」や「気持ちをくみとる」、「子ども心」など誤ったイメージが特に学生に多くみられる。手段・方法カテゴリーに関して、「目線をあわせる」や「話を聞く」などの目に見える具体的な手段・方法を挙げるのは学生に多かった。手段・方法カテゴリーに関する養護教諭のイメージとしては、「自分に置きかえる」、「子どもの見方でみる」などの回答が多いことから、養護教諭は子どもと同じ立場になるために自分のこととして考える傾向があるということが推測される。また、養護教諭だけに見られたカテゴリーとして、「困っていること」や「悩み」などの子どもの立場に立った結果得られるものカテゴリーがある。これは養護教諭が普段行っている健康相談活動などで形成したイメージが表れていると推測される。

『サイン』について、両者の意味カテゴリーにおいて最も発生頻度の多いイメージとして

は「合図」がある。回答内容には若干の違いがみられるものの、主な解釈はほぼ一致している。カテゴリーごとに発生頻度を比較すると、学生では「SOS」や「困っていること」などのサインが伝えるものカテゴリーのイメージと、「表情」や「行動」などのサインを伝える手段カテゴリーのイメージがほぼ同じであった。一方で、養護教諭は「表情」や「言葉」などのサインを伝える手段カテゴリーのイメージが最も多い。養護教諭が職務の中で子どもの健康問題にいち早く気付くために子どもの「表情」や「行動」に注目していることの表れてはならないだろうか。

『ニーズ』について学生、養護教諭ともに意味の捉え方に大きな差はない。しかし、意味カテゴリーの回答内容の中には「実態」や「現状」など、誤って解釈していると考えられる回答があり、主に学生に多くみられた。『ニーズ』という言葉は外来語であり、正しい意味を理解していないまま使用していることが誤ったイメージにつながっていると考えられる。また、ニーズへの対応カテゴリーで養護教諭の回答として「合理的配慮」や「家庭訪問」などの具体的な対応の回答が多く見られたのは、普段の職務の中で使用する用語であるからだと推測できる。

『居場所』について学生、養護教諭ともに意味に関しては大きな捉え方の違いは見られなかった。養護教諭独自のカテゴリーとして、「信頼」や「笑顔」などの居場所にいるときの子どもの様子カテゴリーが挙げられた。また、「保健室」や「教室」などの具体的な環境・名称カテゴリーには特に発生頻度の多かったイメージはなく、人それぞれ居場所と呼べる場所や環境が違うことが推測される。

『癒し』について『癒し』の解釈としての違いはあまり見られなかった。意味カテゴリーの回答として最も多いのは「安心」であったが、次いで学生では「落ち着き」、養護教諭では「ほっとする」である。「落ち着く」と「ほっとする」の意味はほぼ同じであり、『癒し』の意味に関しては両者で違いは見られない。一方で、「癒しの方法・手段」には学生、養護教諭ともにばらつきが見られ、人によって「癒し」を感じるものには違いがあることがわかる。

今回の調査結果から、2つの問題点を指摘することができる。

第一に、今回調査した9つの言葉全てが多様な意味とイメージで捉えられていることである。回答は、単なる意味の違いだけでなく、「その言葉が意味するものを伝えたり表出する方法」、「その言葉が意味するものの具体的内容」、「その言葉が意味するものを実現する方法」、「その言葉が意味するものを受け止めたときの対応」など様々なカテゴリーに分類できる。このことは、同じ言葉を用いてやり取りしても、発する側の言いたいことと受け取る側の受け取ったことが違ったり、同じ言葉を受け止めても人によってそれぞれ違う受け取り方をすることが高いことを示唆している。例えば、「子どもの出すサインに気付く」という言葉を、一人は「合図」というカテゴリーで捉え、もう一人は「サインが伝えるもの」というカテゴリーで捉えて会話したとすると、「子どもがサインを出していることに気付く」と「子どもは何を訴えようとしているかに気付く」という異なる意味でやり取りすることになり、会話がかみ合わないということになる。

第二に、意味としてとらえられているものをみても、ニュアンスの異なるイメージや意味が間違ったイメージがある。例えば、「受容」という言葉の意味として、「受け入れる」、「共感」「理解」「肯定」「同じ気持ち」「分かり合う」「同意」など様々なイメージが表出されているが、受容本来の意味は「受け入れて取りこむこと」であり、「共感」「理解」「肯定」「同じ気持ち」「分かり合う」「同意」などの意味は含まれない。「共有」や「認識」は誤った捉え方である。この場合も、相手に自分の思いを正しく伝えたり、相手の思いを正しく受け止めたり、同じ認識を共有することに支障をきたす。

今回の調査は、養護教諭と養護教諭を目指す学生を対象にしたものであり、学校内の児童生徒、他職種の職員、保護者、関係機関の職員などのイメージと比較することはできないが、専門性や年齢が異なればイメージの食い違いもより大きいことが予想される。食い違いをできるだけ小さくし、相互間の共通理解やスムーズな連携を図るために、よく用いられる言葉については養成校や研修の場で正しい意味をしっかりと伝える、自分はどうのような意味で使っているか、正しい捉え方をしているか振り返ってみる、食い違いを感じたら確認しあうなどの取り組みが必要である。

#### 引用文献

- 1) 文部科学省.中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」.2015.[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/02/05/1365657\\_00.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/02/05/1365657_00.pdf)
- 2) 文部科学省.中央教育審議会.「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)」1996. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/old\\_chukyo/old\\_chukyo\\_index/toushin/1309579.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/1309579.htm)
- 3) 文部科学省「暴力行為のない学校づくり」, 暴力行為のない学校づくり研究会, 2011
- 4) 中島喜代子、廣出由、小長井明美、「居場所」概念の検討、三重大学教育学部研究紀要、58、(2007) pp.77-97
- 5) 浜田順子.「育ち」と「発達」近年の保育研究における用語「育ち」の増加傾向とその意義.保育学研究.34. (1996) pp.33-40
- 6) 野口隆子.小田豊.芦田宏ほか.「保育者の持つ“良い保育者”イメージに関するビジュアルエスノグラフィー.質的心理学研究.」, 4. (2005) pp.152-164
- 7) 野口隆子.鈴木正敏.門田理世ほか「教師の語りに用いられる語のイメージに関する研究」, 教育心理学研究.55. (2007) pp.457-468
- 8) 文部科学省 ホームページ  
[http://www.kumamotokmm.ed.jp/center/kenkyuin/kenkyuukiyou/H13\\_15kenkyuukiyou/yougoweb/pdf/y15\\_yakuwari.pdf](http://www.kumamotokmm.ed.jp/center/kenkyuin/kenkyuukiyou/H13_15kenkyuukiyou/yougoweb/pdf/y15_yakuwari.pdf)
- 9) 山田響子.鶴岡和世.齋藤理沙子ほか.「養護教諭の行う連携に関係する用語と連携推進要因の整理」, 千葉大学教育学部研究紀要.62. (2014) pp.139-145

## **The image of the words about the mental health that school nurses use in their job**

Toshiaki TANAKA<sup>\*1</sup>, Honoka HONKAWA<sup>\*1</sup>, Hujio TAKAGI<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>Department of Childhood Care and Education, Kyushu Woman's Junior College  
1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

<sup>\*2</sup>Department of Health Sport and Communication, Nishinohon Junior college  
1-3-1 Hukuhama, Chuou-ku, Hukuoka-shi, 810-0066, Japan

### **Abstract**

This study investigated the image of the words about the mental health that school nurses and students use officially. School nurse are working in the elementary school. Students are learning childcare and school nurse education. The words that intended for are health, sympathy, reception, glance same as children, signature, need, place to stay and healing. We categorized many replied images. As a result we found various kinds of categories such as meaning of that words, method to introduce the meaning of the words, method to realize the contents of that words, reaction when they heard that words, and so on. In answers of school nurse there were many answers reflecting their job experience in comparison with students. As a result of these it was suggested that even the conversation between a school nurse and students was more likely to be used for a different meaning and image.